

平成 30 年 2 月 28 日掲載

<子供たちに税の使途について考える機会を提供した好事例>

年代に応じた租税教育活動～take action～

**宮崎法人会（宮崎）**

<活動対象> 小中学生、および高校生

<活動の概要>

- ・学校における租税教室では継続することにこだわった「年代に応じた租税教育活動」を展開。
- ① 小学生を対象に「まちづくりワーク」を実施。世の中には税金によって作られたものがたくさんあることを知ってもらう為に、グループで話し合い決めたテーマの「まち」を作ってもらう内容。
- ② 中学生を対象に「消費税増税」をテーマに意見交換会を実施。事業者・消費者等異なる立場から論じることで、税への理解度をより高めてもらう内容。
- ③ 高校生を対象に法人会独自の租税教育プログラム「人生ゲーム」を導入。「スタディタイム」で講師から「税の使途」を学び、「イベントタイム」で「税の種類」を学ぶ。ゲームを通じて「税」の疑似体験をすることで理解を深めてもらう内容。

<参考資料>

「租税教育活動」活動内容関連資料

<摘要>

特になし

<出典>

平成 29 年度租税教育活動プレゼンテーション（高知大会）より

### 【プレスリリースによる租税教育活動の広報・周知】

また、メディアへのプレスリリースにより、宮崎法人会青年部会の活動は、新聞・テレビの取材を通して、広く周知されました。各学校での租税教室が、活動の公共性・公益性を発信する機会となりました。



宮崎法人会青年部会の事業へのこだわり

## 年代に応じた租税教育活動

一過性となりがちなイベント事業と違った効果をもたらし、  
継続して取り組むことにこだわりをもって取り組んでいます。

### 【小学校における租税教室 ～まちづくりワーク～】

小学校の租税教室では、我々宮崎法人会青年部会が独自に作成した「まちづくりワーク」を使います。まちづくりワークは、地図上に自分たちで決めたテーマの「まち」を作ります。その過程の中で、世の中には税金によって作られたものがたくさんあり、私たちの生活にとって必要であることを学びます。



また、「まちづくりワーク」では、考える過程を大切にしています。グループで取り組むことで、話し合い、意見を共有して、構築します。子どもたちが笑顔で取り組んでいる姿は、我々の励みとなりました。

### 【中学校における租税教室 ～意見交換会～】

中学校の租税教室では、私たちの生活にかかわる身近な税を取り上げ、税に関する知識をより深いものとし、税への理解度を高めました。今回は「消費税増税」をテーマに、税務行政・税理士・事業者・消費者の立場から意見を交わしました。生徒からは公平不公平は各々の立場に立てば人それぞれ、自分達が勉強し、税が適正な使われ方をされているかに興味を持ちたい。といった意見が出ました。

## 【高校における租税教育活動 ～人生ゲーム～】

我々が最初に高校生の租税教室で行ったことは、税に関するディベートの実施でした。

2012年、宮崎学園高等学校2年生（353名）を対象に「消費税増税について」をテーマとしてディベートを行いました。代表者3名1組の10組（30名）で予選を行い、2組による代表選を例会にて開催しました。

自ら考える方式をとり、これから社会へはばたく学生にとって「税の監視役」としての意識醸成となりました。

しかしながらディベート実施については、事前レクチャー、予選から本選と、準備に時間が必要です。学校の要望を取り入れ、連携を深めることが重要となります。また、ディベートは、行う生徒と観戦する生徒で、理解度の隔たりが否めません。



そこで我々独自に作成した租税教育プログラム「人生ゲーム」を使って租税教室を行うことにしました。人生ゲームは「イベントタイム」と「スタディタイム」で構成されます。

### ○イベントタイム

就職では、年収の決定。生涯収入を計算結婚では、結婚をする、しないや、子どもの人数を決めます。住宅購入では、一戸建てやマンションを選びます。時には「サイコロ」を使って決めます。所得税、住民税といった消費税以外の税金や、固定資産税や贈与税といった人生の中で関わる「税の種類」を学びます。

### ○スタディタイム

メンバーが講師となり、結婚・子育て費用など、社会経済に関するデータや、家計に例えた国の財政などをわかりやすく説明します。実際に起業しているメンバーからの話は、高校生にとって実社会を垣間見る、貴重な時間となります。

イベントタイムで「税の種類」、スタディタイムでは「税の使途」を！  
このように、人生の節目でかかわる様々な「税」が、年金や医療といった社会保障へと使われ、社会保障の充実のためには、「税の使途」が重要であることを学びます。

人生ゲームを使って「税」を疑似体験することで、税を身近に感じ、「税を納めること」と「税の使途」両方の理解を得ることができました。

